

大学の世界展開力強化事業
(平成26年度選定)
平成29年度フォローアップ結果について

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会
平成29年8月4日(金)
独立行政法人 日本学術振興会

■ フォローアップの目的

「大学の世界展開力強化事業」の適正な事業管理を行うとともに、各大学における円滑な事業実施の支援、事業成果の還元のため、毎年度各大学の取組の進捗状況を確認するフォローアップ活動を行う。

【参考：大学の世界展開力強化事業公募要領（抜粋）】

2. 事業の概要

(7) 事業の評価等

毎年度ごとのフォローアップ活動（後述の「中間評価」実施年度は除く。）に加え、支援開始から3年目の平成28年度に中間評価、支援終了後（支援開始から6年目の平成31年度）に事後評価を実施する予定です。これらのフォローアップ活動及び中間評価の結果は、翌年度の補助金の配分に勘案されるとともに、事業目的、目標の達成が困難又は不可能と判断された場合は、事業の中止も含めた計画の見直しを行うことがあります。これらの評価等については、委員会で定める評価方法、基準等に基づいて行われます。

3

■ スケジュール

- ・ 平成29年4月17日
フォローアップ実施について文部科学省から各選定大学に通知
- ・ 平成29年5月24日～5月26日
各選定大学からフォローアップ調査票の提出
- ・ 平成29年8月4日
大学の世界展開力強化事業プログラム委員会にフォローアップ結果の報告
- ・ 平成29年9月
フォローアップ結果の公表

■ フォローアップの総括

平成26年度に選定された9件のプログラムについて、選定時の構想の各観点における進捗状況、特記すべき事項や構想時に設定した達成目標に対する平成28年度実績（派遣・受入の学生数）等のフォローアップを行った。

各プログラムの取組、課題等や学生交流の進捗状況を見ると、それぞれのプログラムの目的や特色等を反映した取組が行われている。特に、ダブル・ディグリープログラム設置に向けた共同教育体制構築のための単位互換制度の確立や、大学間交流の枠組みの他大学への拡大などの例が報告されている。一方で、新たな課題や問題点も浮上しており、各選定大学はその対応や解決に努めている。

事業全体の交流学生数の実績を見ると、全体としては派遣・受入いずれも目標を上回っている。選定初年度は実質的な事業実施期間が短かったこともあり、単位取得を伴う派遣学生数が少なかったものの、その後は堅調に推移している。

今後も、本事業の趣旨に則り、各プログラムが更に充実し、成果を挙げられることを期待する。

5

1. 取組の進捗状況

「大学の世界展開力強化事業（平成26年度採択）平成28年度フォローアップ調査票」（以下、調査票とする）による各選定大学からの回答に基づき、下記①～④の各観点における取組内容の進捗状況について、抽出・整理を行った。

- ①交流プログラムの内容
- ②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成
- ③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備
- ④構想の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

①交流プログラムの内容

（主たる交流先の相手国・ロシア：北海道大学）

インターンシップや論文指導を目的とした「発展科目」は、2月から3月まで開講した。本学学生1名がロシア側大学1校で発展科目を受講した。ロシア側教員から専門性の高い指導を受け、学生自身の学位論文作成に活かすことができた。

（主たる交流先の相手国・ロシア：筑波大学）

派遣日本人学生に対する帰国後教育にも注力したい。就職力強化支援策として、総合ビジネス研修、就職セミナーの実施や求人情報の提供等、就職活動に関するサポートを強化する。受入留学生に対しては、希望者を対象に総合ビジネス研修（ビジネスマナー、履歴書の書き方等）、日本企業の求人情報の提供等を行う。

（主たる交流先の相手国・ロシア：新潟大学）

平成28年度は全プログラムで予定交流数を達成、または大幅に上回る実績を上げることができた。A医学生交流のうち、①夏期医学生交流（派遣7名、受入12名）は、希望分野での実習、特別講義に加え、病院見学や学外医療施設の視察など多方向から学生を刺激する内容とした。②医学研究実習（派遣7名、受入1名）は、ロシア側教員によるマンツーマンの指導を受け、基礎医学の研究を2ヶ月間行うものである。本プログラムは当初派遣のみの計画であったが、その内容が高度で良質な医学者・医療人の育成につながるものであることから、ロシア側の強い希望で受入を新設した。

（主たる交流先の相手国・インド：東京大学）

教育活動を展開する①鉄道技術者育成プログラム、②社会インフラ教育連携プログラム、③イノベーション教育連携プログラム、④技術経営教育連携プログラム、⑤情報理工教育連携プログラム、の各プログラムにおいて、それぞれのインド工科大学パートナー各校等との教育連携関係を一層深めながら、着実に計画を実施している。

（主たる交流先の相手国・インド：立命館大学）

派遣プログラムでは、インドの課題（交通、エネルギー）について、本学学生が現地の企業訪問などでヒアングを行い、解決策を導きだした。一方、受入プログラムでは、「人工知能」をテーマに、ニッテ大学の学生が立命館大学の研究室見学や企業見学を行い、インドにおける展開を考え、発表を行った。両大学の学生は、それぞれの受入時にともに協力しあい、交流を深めた。

7

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

（主たる交流先の相手国・ロシア：東北大学）

異文化体験型交流プログラムを単位化することができた。当該プログラムを履修した学生の成績は、研修終了後にロシア交流推進室所属の教員およびロシア側連携校で受入れを担当した教員によって5段階評価され、一定基準以上の成績を修めた学生には、東北大学全学教育科目等規程に則り2単位（全学教育科目・展開科目・総合科学・カレントトピックス科目）を付す体制を整えた。

（主たる交流先の相手国・ロシア：筑波大学）

交流実施大学のひとつであるカザフ国立大学との間では大学間共通単位認定枠を盛り込んだ「キャンパス・イン・キャンパス構想」の実現に向けた協力を両大学で進めていく旨を記載したメモランダムに署名し、本学アルマトイオフィスを中心に作業中である。このように先進的・意欲的な大学との取り組みを優先して進め、それをモデルケースとして他の交流実施大学にも普及させることを目指す。

（主たる交流先の相手国・ロシア：新潟大学）

本事業で形成された大学間交流の枠組みの成果は、ロシアのその他の医科大学にも波及し始めている。平成28年度にサンクトペテルブルク大学と大学間交流協定を締結し、既に若手医師の交流を開始した。

（主たる交流先の相手国・インド：長岡技術科学大学）

ダブルディグリープログラム設置に向けた共同教育体制を構築するため、連携するインド工科大学マドラス校及びインド情報・設計・生産技術大学カーンチプラム校との間で質の保証された単位互換制度を確立し、両国の学生が在籍期間を延長することなく、留学できる仕組みを整えた。

（主たる交流先の相手国・インド：北陸先端科学技術大学院大学）

平成27年度より、日本人学生の国際セミナー等への参加を授業科目「科学技術世界展開」の履修の一部とし、学修成果の単位認定を可能としたところ、平成28年度は履修登録者のうち6名が実際にインドでのセミナーに参加し、単位を修得した。平成29年度以降も、履修登録開始前の説明会の実施等により、履修登録及びセミナー等への参加を促す。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

（主たる交流先の相手国・ロシア：北海道大学）

課題としては、年々プログラムが拡大していく中、学生の派遣及び受入に係る協力教職員の十分な確保が挙げられる。今後の展望としては、学生交流を伴う科目開講時期を調整し、協力教職員のスケジュールの管理を徹底し、スムーズなプログラム運営を目指す。

（主たる交流先の相手国・ロシア：東京大学）

派遣学生の渡航前に集中的にロシア語講座を実施することにより、渡航後すぐに役立つ実践的なロシア語を学生に身につけさせることができた。

（主たる交流先の相手国・インド：東京大学）

インドへ派遣した学生からは事後のヒアリングを行い、学習・生活面での細かい情報を収集して次に派遣される学生のための有効な情報として利用している。工学系・情報理工学系両研究科に設置された国際推進課では、両研究科合わせて1,000人を超える留学生の在籍管理、緊急時の対応を行っており、その経験とノウハウが確実に蓄積されていることから外国人学生の受入はスムーズに実施されている。

（主たる交流先の相手国・インド：長岡技術科学大学）

日本人学生派遣においては、「インド生活用語集」を新たに作成する等、平成28年度以前に比してよりきめ細やかなサポートを行い、結果として高額紙幣の廃止やサイクロン直撃等の混乱に際しても大きなトラブルなく派遣を継続することができた。

（主たる交流先の相手国・インド：北陸先端科学技術大学院大学）

特別学修生及び協働教育研究指導による受入では、学生寄宿舍の収容定員超過により、一部の受入学生について別の宿舎を手配する必要が生じたが、学内の外国人研究者用宿泊施設を利用可とする学内規則を整備するとともに、民間アパートの大学による借上を行った。

9

④構想の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

（主たる交流先の相手国・ロシア：東北大学）

本学ホームページやロシア交流推進室のホームページにおいて、本学および連携校が実施している留学プログラムに関する情報や既に実施された学生交流、ジョイントセミナーなどの成果報告を多言語（日本語・ロシア語・英語）で発信している。また、本学が実施している留学プログラムの募集案内や既に実施された学生交流、ジョイントセミナーなどの成果報告は、連携するロシア側大学のホームページで発信されている。

（主たる交流先の相手国・ロシア：東京大学）

今年度より、本学のウェブサイトには派遣・受入双方の学生から提出されたプログラムレポート (<http://www.s.utokyo.ac.jp/ja/STEPS/program/report.html>) を掲載し、更なる情報の拡充をはかっている。レポートを通じて、プログラムの具体的な活動が活き活きと伝えられ、応募への関心が高まると考えられる。

（主たる交流先の相手国・ロシア：新潟大学）

クラスノヤルスクで開催した日露医療シンポジウムの様子が現地テレビ局で取り上げられるなど、マスコミ媒体を介してロシア国内向けにも情報公開が進んだ。

（主たる交流先の相手国・インド：東京大学）

SNSも利用してインドから受け入れた学生のネットワーク作りを促した。インド各地で開催された留学フェアの機会も利用して、本事業のパンフレットを配布した。インターンシッププログラムについては、第2回の募集を平成28年度末に行ったが、募集定員の20倍近い応募があり、情報伝播の成果を実感できた。

（主たる交流先の相手国・インド：立命館大学）

専用ホームページやリーフレットに過年度の実施内容を掲載し、情報を公開している。今後は過年度参加学生の声を多く掲載するなど、より具体的な内容を公開し、成果の普及に努める。

2. 特記すべき成果

(主たる交流先の相手国・ロシア：北海道大学)

平成29年度は、基礎科目においてロシアで実施するフィールド実習を新たに1科目追加し、6月に開講する予定である。これにより、ロシア・フィールド実習は計2科目となり、ロシアでの研修を希望する学生の専門性に答えられるようにした。また、本学が全学で展開している受入型の「Hokkaidoサマー・インスティテュート」事業に、本プログラムの基礎科目の中の2科目を登録し、ロシア以外の学生でも受講できるような体制にした。今後の展開としては、基礎科目のすべての科目の登録を目指す。

(主たる交流先の相手国・ロシア：東北大学)

ロシア3地域（モスクワ・ノボシビルスク・ウラジオストク）および本学における学生参加型ジョイントセミナー（心理学、アジア学、農学、材料学、エネルギー工学）を計10回以上開催し、ジョイントラボにおける共同教育も実施された。

(主たる交流先の相手国・ロシア：新潟大学)

本事業採択時に留意事項として指摘された日本人学生への意識喚起については、これまでの取組成果が学生に周知されるようになり、初年度に比べると参加希望学生数も大幅に増加している。学生は早い時期に国際医学や医療に目を向けるようになり、積極的に海外での実習を希望するようになった。参加者の中にはUSMLE（米国医師免許試験）を受験する者もでてきている。

(主たる交流先の相手国・インド：長岡技術科学大学)

5月～7月にかけて、日本国内の民間企業との三者間協定に基づきインド人学生1名を受入れインターンシップを行った。招聘にあたり民間企業の経済支援を受けるスキームとなっており、事業の継続性の観点から有意義である。また、新たに協力企業として2社を開拓し、平成29年度受入れ開始に向けて協議を進めた。

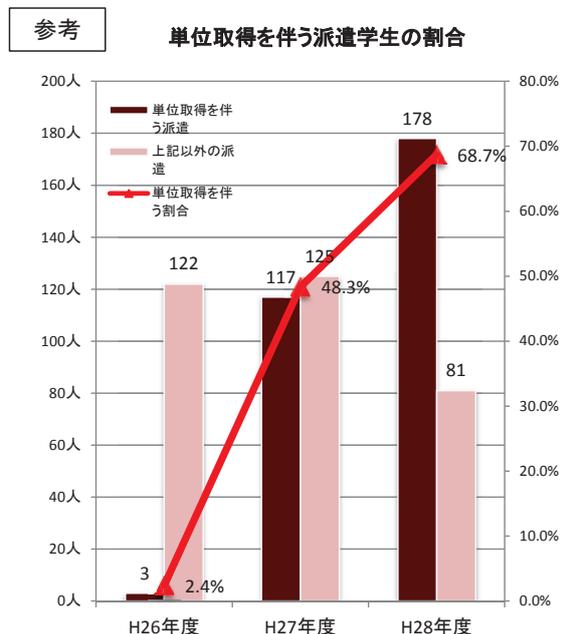
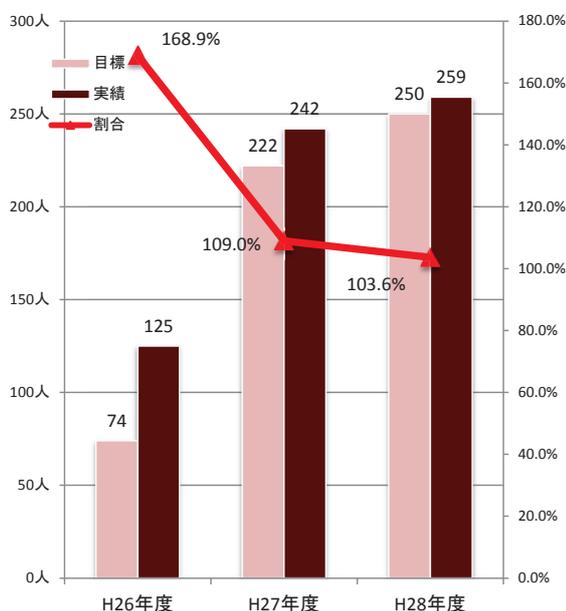
11

3. 交流学生数の実績（1）

(1-1) 交流プログラムで海外に留学した日本人学生数(派遣学生数)について【全体の状況】

※詳細は別表1参照

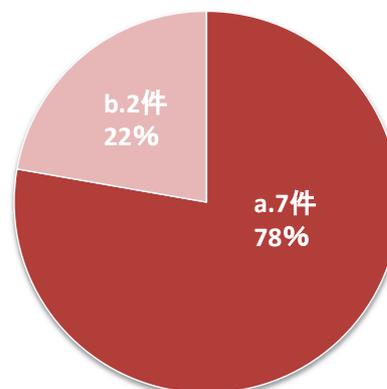
単位取得を伴う派遣学生が多数を占め、また派遣実績は目標を上回った。



(1-2) 交流プログラムで海外に留学した日本人学生数(派遣学生数)について【各プログラムの状況(平成28年度)】

達成目標に対する実績の割合が

- a. 100%以上200%未満だったプログラム
- b. 100%未満だったプログラム



※プログラムごとの派遣学生数の詳細は別表1参照

13

(1-3) 交流プログラム(派遣)の進捗状況について(各大学のコメントより抜粋)

【平成28年度の達成目標に対し実績が上回っているプログラム】

(主たる交流先の相手国・ロシア：筑波大学)

派遣に関しては、①交換留学、②海外研修、③医療実務研修の3つの事業を展開し、目標を上回る数の学生を派遣した。【医療実務研修】派遣については、医学群生2名をロシア国立研究医科大学に派遣し、関連病院で約1か月の実務研修を実施した。研修中にはロシアの医療現場を体感し、グローバル化する今後の医療現場で必要となる国際感覚を養った。なお本研修は、「M6海外臨床実習」の一環として行い、2名が単位を取得した(11単位)。

(主たる交流先の相手国・インド：北陸先端科学技術大学院大学)

平成28年度は2件のセミナーをインドで開催し、日本人学生を19名派遣した(派遣期間：4～15日)。授業科目「科学技術世界展開」の設置(平成27年度)により、セミナー等への参加を当該科目の履修の一部とすることで学修成果の単位認定を可能としたところ、平成28年度は履修登録者のうち6名が実際にインドでのセミナーに参加し、単位を修得した。セミナー等への短期派遣は、相手校との協力体制が確立しており、平成29年度以降もインド留学への動機付けの側面を重視し年間16名以上の派遣を目標として継続する。

(主たる交流先の相手国・インド：立命館大学)

各プログラムの募集説明会では、プログラム内容の説明とともに、過年度の参加学生の体験談発表を行った。実際に参加した学生が、自身の言葉でプログラム参加のきっかけや現地における体験を語ることで、参加を検討している学生にとっては、よりわかりやすく、学生の参加者増につながった。

【平成28年度の達成目標に対し実績が下回っているプログラム】

(主たる交流先の相手国・ロシア：東京大学)

平成27年度より、学生の自主性涵養のためプログラムを以下の通りに企画・実施している。

1. 応募学生自らが受入先の教授や准教授に直接打診して、許可を得る。
2. 応募学生は受入教員と共同研究や研究実習を計画し、そのプランを応募書類として提出する。
3. 募集は年2回とし、滞在期間を1ヶ月以上3ヶ月までとする。

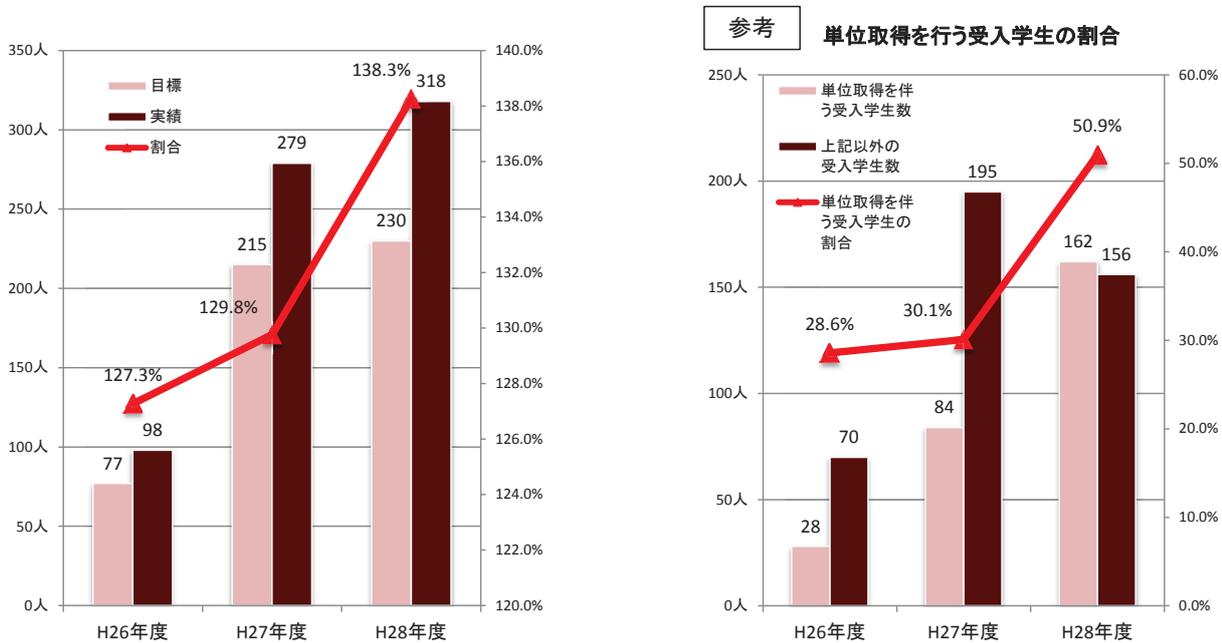
これにより渡航先でのミスマッチをなくし、学生自身の関心に沿った学術研究活動を行えるだけでなく、渡航期間も1ヶ月～3ヶ月程度あるため、研究生活だけでなく異文化間交流の機会も増え、より充実した留学生活を送ることが可能となった。平成28年度も同様のプログラムで4月と10月に派遣学生を募集し、モスクワ大学へ7名、サンクトペテルブルク大学へ5名の派遣を行った。

3. 交流学生数の実績（2）

(2-1) 交流プログラムで受け入れた外国人学生数(受入学生数)について【全体の状況】

※詳細は別表2参照

単位取得を伴う受入学生が50.9%にとどまったが、受入実績は目標を上回った。

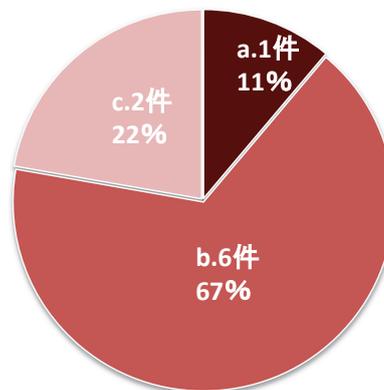


15

(2-2) 交流プログラムで受け入れた外国人学生数(受入学生数)について【各プログラムの状況(平成28年度)】

達成目標に対する実績の割合が

- a. 200%以上だったプログラム
- b. 100%以上200%未満だったプログラム
- c. 100%未満だったプログラム



※プログラムごとの受入学生数の詳細は別表2参照

(2-3) 交流プログラム(受入)の進捗状況について(各大学のコメントより抜粋)

【平成28年度の達成目標に対し実績が上回っているプログラム】

(主たる交流先の相手国・ロシア：東京大学)

平成27年10月と平成28年4月にモスクワ大学及びサンクトペテルブルク大学において募集を行い、派遣元大学による推薦審査及び本学日露学生交流プログラム運営委員会による審査と承認を経て、モスクワ大学から14名、サンクトペテルブルク大学から17名が採択された。学生自身の分野に合った研究活動を行っただけでなく、研究室のメンバーとの異文化交流の機会も増え、より充実した留学生活を送ることができた。

(主たる交流先の相手国・インド：長岡技術科学大学)

平成28年度は、主として大学院レベルにおける単位互換を伴う学生3名の短期受入を行った。当初計画よりも受入学生数が減少しているのは、インド側の学年暦の都合によるもので、日本に留学を希望するが授業等の関係から断念せざるを得ない学生がいたためである。ただし、単位取得はせず専ら研究に従事する形で受け入れたインド人学生と併せ、受入人数の合計はいずれの年度も当初目標以上の数で推移している。

【平成28年度の達成目標に対し実績が下回っているプログラム】

(主たる交流先の相手国・ロシア：北海道大学)

課題については、ロシア側大学から提出された受講学生リストでは、各大学5名の計25名(うち長期受入10名)が計画通り選出されているが、学生の都合や書類の不備による参加取り消しが生じ、結果的に達成数がクリアできないという状況が挙げられる。今後の展望については、このような参加希望学生の取り消しについて、セントラル・オフィスとリエゾンデスクが連携し、できるだけ早急にその情報を共有することで、次の参加希望学生にその枠を与えられるような体制を整備する。

別表1:プログラムごとの派遣学生数(平成26年度)

(単位:名)

	取組年度	合計人数		達成目標に対する実績の割合(%)	(内訳)													
		目標(計)	実績(計)		単位取得を伴う派遣学生数(計)				左記以外の派遣学生数(計)									
					3ヶ月未満	3ヶ月以上	目標	実績	目標	実績	目標	実績						
主たる交流先の相手国・ロシア	北海道大学	極東・北極圏の持続可能な環境・文化・開発を牽引する専門家育成プログラム	H26	10	5	50.0	0	0	0	0	0	0	10	5	10	5	0	0
			H27	25	27	108.0	25	27	15	26	10	1	0	0	0	0	0	0
			H28	25	35	140.0	25	35	15	32	10	3	0	0	0	0	0	0
			計	60	67	111.7	50	62	30	58	20	4	10	5	10	5	0	0
	東北大学	日露間における新価値創造人材の育成	H26	10	10	100.0	0	0	0	0	0	10	10	10	10	0	0	
			H27	23	14	60.9	8	0	6	0	2	0	15	14	15	14	0	0
			H28	23	17	73.9	8	17	6	15	2	2	15	0	15	0	0	0
			計	56	41	73.2	16	17	12	15	4	2	40	24	40	24	0	0
	筑波大学	ロシア語圏諸国を対象とした産業界で活躍できるマルチリンガル人材育成プログラム	H26	8	52	650.0	0	0	0	0	0	8	52	8	52	0	0	
			H27	38	76	200.0	13	35	5	26	8	9	25	41	25	41	0	0
			H28	45	54	120.0	20	43	5	32	15	11	25	11	25	11	0	0
			計	91	182	200.0	33	78	10	58	23	20	58	104	58	104	0	0
	東京大学	自然科学と社会基盤学の連携による日露学生交流プログラム	H26	25	27	108.0	0	0	0	0	0	25	27	25	27	0	0	
			H27	25	14	56.0	5	0	0	0	5	0	20	14	20	14	0	0
			H28	25	13	52.0	5	1	0	0	5	1	20	12	20	12	0	0
計			75	54	72.0	10	1	0	0	10	1	65	53	65	53	0	0	
新潟大学	日露の経済・産業発展に資するグローバル医療人材育成フレームワークの構築	H26	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		H27	11	13	118.2	4	1	2	1	2	0	7	12	7	12	0	0	
		H28	11	16	145.5	4	16	2	16	2	0	7	0	7	0	0	0	
		計	22	29	131.8	8	17	4	17	4	0	14	12	14	12	0	0	
合計			304	373	122.7	117	175	56	148	61	27	187	198	187	198	0	0	
主たる交流先の相手国・インド	東京大学	日印産官学連携による技術開発と社会実装を担う人材育成プログラム	H26	6	11	183.3	0	0	0	0	0	6	11	6	11	0	0	
			H27	40	32	80.0	16	0	16	0	0	24	32	20	32	4	0	
			H28	42	43	102.4	24	0	24	0	0	18	43	13	43	5	0	
			計	88	86	97.7	40	0	40	0	0	48	86	39	86	9	0	
	長岡技術科学大学	長期インターンシップ実績を活用した南インドとの共同実践的技術者教育プログラム	H26	2	6	300.0	2	2	0	2	2	0	4	0	4	0	0	
			H27	12	12	100.0	7	7	0	0	7	7	5	5	0	5	5	
			H28	12	12	100.0	12	10	0	0	12	10	0	2	0	2	0	0
			計	26	30	115.4	21	19	0	0	21	19	5	11	0	11	5	0
	北陸先端科学技術大学院大学	インド等の海外で活躍できる知的にたくましい先導的科学者・技術者の育成	H26	8	11	137.5	8	0	8	0	0	0	11	0	11	0	0	
			H27	18	18	100.0	18	11	16	9	2	2	0	7	0	7	0	0
			H28	22	22	100.0	22	9	16	8	6	1	0	13	0	13	0	0
			計	48	51	106.3	48	20	40	17	8	3	0	31	0	31	0	0
	立命館大学	産学国際協働PBLによる南アジアの異文化・多様性社会の中で活躍できる高度理工系人材の育成	H26	5	3	60.0	0	1	0	1	0	0	5	2	5	2	0	0
			H27	30	36	120.0	30	36	30	36	0	0	0	0	0	0	0	
			H28	45	47	104.4	45	47	45	47	0	0	0	0	0	0	0	
計			80	86	107.5	75	84	75	84	0	0	5	2	5	2	0	0	
合計			242	253	104.5	184	123	155	101	29	22	58	130	44	130	14	0	
総計			546	626	114.7	301	298	211	249	90	49	245	328	231	328	14	0	

別表2:プログラムごとの受入学生数(平成26年度)

(単位:名)

	取組年度	合計人数		達成目標に対する実績の割合(%)	(内訳)													
		目標(計)	実績(計)		単位取得を伴う受入学生数(計)				左記以外の受入学生数(計)									
					3ヶ月未満		3ヶ月以上		3ヶ月未満		3ヶ月以上							
目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績					
主たる交流先の相手国・ロシア	北海道大学	極東・北極圏の持続可能な環境・文化・開発を牽引する専門家育成プログラム	H26	25	35	140.0	0	0	0	0	0	0	25	35	25	35	0	0
			H27	25	25	100.0	25	25	15	16	10	9	0	0	0	0	0	0
			H28	25	24	96.0	25	24	15	18	10	6	0	0	0	0	0	0
			計	75	84	112.0	50	49	30	34	20	15	25	35	25	35	0	0
	東北大学	日露間における新価値創造人材の育成	H26	10	12	120.0	0	2	0	0	0	2	10	10	10	10	0	0
			H27	27	26	96.3	12	5	8	0	4	5	15	21	15	21	0	0
			H28	27	26	96.3	12	7	8	0	4	7	15	19	15	19	0	0
			計	64	64	100.0	24	14	16	0	8	14	40	50	40	50	0	0
	筑波大学	ロシア語圏諸国を対象とした産業界で活躍できるマルチリンガル人材育成プログラム	H26	8	14	175.0	0	14	0	0	0	14	8	0	8	0	0	0
			H27	40	98	245.0	18	28	0	0	18	28	22	70	22	49	0	21
			H28	40	106	265.0	18	74	0	22	18	52	22	32	22	10	0	22
			計	88	218	247.7	36	116	0	22	36	94	52	102	52	59	0	43
東京大学	自然科学と社会基盤学の連携による日露学生交流プログラム	H26	0	8	-	0	0	0	0	0	0	8	0	8	0	0	0	
		H27	25	1	4.0	5	0	4	0	1	0	20	1	20	1	0	0	
		H28	25	31	124.0	5	2	4	0	1	2	20	29	20	29	0	0	
		計	50	40	80.0	10	2	8	0	2	2	40	38	40	38	0	0	
新潟大学	日露の経済・産業発展に資するグローバル医療人材育成フレームワークの構築	H26	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		H27	11	15	136.4	4	0	0	0	4	0	7	15	7	15	0	0	
		H28	11	17	154.5	4	16	0	16	4	0	7	1	7	1	0	0	
		計	22	32	145.5	8	16	0	16	8	0	14	16	14	16	0	0	
合計			299	438	146.5	128	197	54	72	74	125	171	241	171	198	0	43	
主たる交流先の相手国・インド	東京大学	日印産官学連携による技術開発と社会実装を担う人材育成プログラム	H26	2	4	200.0	2	4	0	0	2	4	0	0	0	0	0	
			H27	42	58	138.1	21	11	19	3	2	8	21	47	20	46	1	1
			H28	43	49	114.0	29	15	27	3	2	12	14	34	12	34	2	0
			計	87	111	127.6	52	30	46	6	6	24	35	81	32	80	3	1
	長岡技術科学大学	長期インターンシップ実績を活用した南インドとの共同実践的技術者教育プログラム	H26	4	3	75.0	0	0	0	0	0	4	3	0	3	4	0	
			H27	10	11	110.0	0	2	0	2	0	0	10	9	0	9	10	0
			計	24	26	108.3	10	5	0	5	10	0	14	21	0	21	14	0
	北陸先端科学技術大学院大学	インド等の海外で活躍できる知的にたくましい先導的科学者・技術者の育成	H26	18	20	111.1	6	6	0	0	6	6	12	14	12	14	0	0
			H27	20	22	110.0	8	0	0	0	8	0	12	22	12	20	0	2
			H28	24	27	112.5	12	10	0	4	12	6	12	17	12	17	0	0
			計	62	69	111.3	26	16	0	4	26	12	36	53	36	51	0	2
	立命館大学	産学国際協働PBLによる南アジアの異文化・多様性社会の中で活躍できる高度理工系人材の育成	H26	10	2	20.0	7	2	0	0	7	2	3	0	3	0	0	0
H27			15	23	153.3	15	13	5	4	10	9	0	10	0	10	0	0	
H28			25	26	104.0	25	11	10	9	15	2	0	15	0	15	0	0	
計			50	51	102.0	47	26	15	13	32	13	3	25	3	25	0	0	
合計			223	257	115.2	135	77	61	28	74	49	88	180	71	177	17	3	
総計			522	695	133.1	263	274	115	100	148	174	259	421	242	375	17	46	